

サイト名称

四万十市トンボ自然公園(通称トンボ王国)

法人・団体名

公益社団法人トンボと自然を考える会

## 希望する支援の種類

- 金銭的支援
- 人的支援

## 希望する支援の具体的な内容

希望するご支援は、本会の調査・実践活動で得られた資料や情報を展示公開する博物館（四万十川学遊館あきつお）を含む、トンボ自然公園（通称トンボ王国）の維持・管理費用と、スイレン抜き等、トンボ保護区維持管理にかかるボランティア作業です。

現在のトンボ自然公園等、里山の生態系崩壊の3大懸案は過疎高齢化による農耕地および周辺の管理不足（自然環境の荒廃）、これ（人手不足と高齢化）に起因する農耕地等への農薬過剰使用、そして気候変動をもたらす温暖化の進行とされます。これらの内、トンボ自然公園では、トンボ類を中心とする数十年の調査から特に管理不足に着目、1985年の事業開始当初から放棄田が広がる里山を舞台に、立地条件を踏まえた積極的な人的整備と管理を継続的に実施、当初60種だったトンボ記録種は現在81種まで増加、年間確認種も2005年から2023年までずっと60種以上を維持しています（2024年は9月27日現在58種で、60種確認が視野に入っている）。半世紀ほどまで四万十川流域各所に存在した生態系、すなわち生物多様性環境を守りつつ、さらに磨きをかけた「ネイチャー・ポジティブ」の先駆けと言っても過言ではないと思います。

とはいえ、かつて1haほど耕作されていた谷奥の棚田が全て放棄田化し周囲の山林も過剰繁茂、用水路として利用されていた溪流環境も日照不足と生長した樹木の吸水によって沢涸れが頻発するようになり、カトリヤンマやミヤマアカネなどを含む中山間地の生態系が劣化一途となっています。もし、皆様から一定レベルの経済的支援が得られるなら、当該地を購入の上、再び生物多様性に富む棚田環境を再生したいと考えています。また、このことは谷内の保水力強化につながり、下流に位置する現トンボ保護区のさらなる活性化につながることを期待できます。

## 支援者向けコメント

ご支援下さった方々には、以下のようなお礼を考えています。

1. ホームページ、リーフレット等の印刷物、トンボ保護区もしくは四万十川学遊館の適所へのご芳名明記
2. トンボ類を中心とする保護区内で見られる動植物の画像提供
3. 保護区の生物多様性環境を活用した「生きものさがしゲーム・レベル5」、四万十川学遊館の豊富な展示物（トンボ類約1,000種3,000点を含む国内外の昆虫標本約2,500種、四万十川産約120種を含む国内外の淡水・汽水活魚約300種2,000尾など）を活用した「推理ゲーム・私は誰でしょう?」、スタッフによるパワーポイントを用いた環境講座等、既存の体験メニューをそれぞれの対象に応じて組み合わせた研修の無償受け入れ
4. ご支援レベルに応じた、四万十川学遊館優待券の提供
5. その他、可能な範囲でのご要望受け入れ

